

フェアプレイを考える

ー ルールの中でのプレイの精神を、スポーツを通して身に付けようー

実行委員長
林 明夫
(開倫ユネスコ協会会長)

1. はじめに

- (1)皆様、おはようございます。ようこそ第 9 回 KAIRIN 杯ドッジボール選手権大会に御参加下さいました。心より歓迎いたします。お陰様で、関東各地から 50 チーム、約 1000 名の選手の皆様と、保護者・御家族の皆様をはじめとする約 500 名の応援の皆様をお迎えすることができました。有難うございます。
- (2)この大会が開催できますのは、佐野市長岡部正英様、佐野市教育委員会の皆様、栃木県ドッジボール協会の皆様、佐野ユネスコ協会の皆様、ご来賓の衆議院議員茂木敏充様、栃木県議会議員斉藤具秀様、全国脊髄損傷者連合会栃木県支部・栃木県車椅子の会村上八郎様、そして何よりも 30 名以上の審判員の皆様と 20 名以上のボランティアの皆様のお陰様であります。
- (3)大会開催に当たり、心から感謝申し上げます。本当に有難うございました。

2. フェアプレイを考えるー ルールの中でのプレイの精神を、スポーツを通して身に付けようー

- (1)さて皆様、スポーツの素晴らしさとは何でしょうか。少し考えてみましょう。私は、次の 3 つだと考えます。
- (2)第 1 は、スポーツに打ち込めば打ち込むほど、今日の皆様のように試合や練習でいろいろなところに出掛けることができるので、自分の住んでいる地域以外の様子を知り、いろいろな人と出会うことができるということです。「見聞を広め、志を同じくする友達をつくることができる。」これが、スポーツに打ち込む素晴らしさの 1 つです。
- (3)第 2 は、スポーツに励めば励むほど上手になり、素晴らしいプレイができるようになったり成績が向上しますが、上には上がいるということも知ることになります。「謙虚な心」を学ぶ、身に付けることができる、これがスポーツの素晴らしさの 2 つめです。
- (4)第 3 は、すべてのスポーツには「ルール(きまり)」があり、その「きまり(ルール)」に違反した行為は一切認められないこと、また、いくらルールの範囲内でも「いやしいプレイ」、「フェアでないプレイ」は軽蔑の対象となり、全く評価されないということを知ることです。
スポーツを通して、「ルールの中でのプレイ」と「フェアプレイ」の精神を身に付けることができます。

3. おわりに

ようこそお越し下さいました。心から感謝申し上げます。今日一日、明るく、楽しく、元気よくお過ごし下さいね。